

# 「断熱改修は効果的」

## 事例発表やパネルディスカッション

「持続可能な脱炭素社会づくり」を目標とする県のゼロカーボン戦略の推進を目的とした「2025ゼロカーボンミーティングin諏訪」は27日、原村中央公民館と原中学校で開いた。住民や自治体関係者ら約30人が出席。「断熱改修からゼロカーボンをジブンゴトに」をテーマに、事例発表やパネルディスカッションを繰り広げた。

(佐々木孝彦)

## 県ゼロカーボンミーティング in 諏訪



建物の断熱改修の有効性について話を聞いた県ゼロカーボンミーティングin諏訪Ⅱ原村中央公民館

県は今年11月、策定から5年を迎えた同戦略の中間見直しを実施。「さらなる実施を検討すべき項目」として、家庭部門でのエネルギー効率化を掲げ、住宅の高断熱・高気密化を促すほか、再生可能エネルギー設備などの導入を指している。

この日の事例発表では今年度、原中の教室の断熱改修に携わった建築士の樋川善史さんと、富士見高校や自身が運営に参画するユースセンターの断熱改修を手掛けたNPO法人こどもの未来をかんがえる会（富士見町）共同代表の西明子さんが登壇。生徒らと実施した壁や天井、床への断熱材敷設の様子を紹介した。西さんは「施行後の効果検

証、見える化が難しい」としながらも「高校の場合、先生

「断熱改修は効果的であることを伝えた。主催した県諏訪地域振興局の山本一海環境課長は「今回のミーティングを通じ、参加者に『自分もやってみよう』という意識が生まれれば幸い」と話していた。